京都市立病院紀要　第41巻　2021

目　　次

巻 頭 言 ……黒田　啓史

研　　究

院内フローサイトメトリーによる造血器腫瘍診断の取り組み
……宮原　裕子
前田　雅子，村上　典子
石田　宏之
伊藤　　満…… 1

当院で入院加療を行った新型コロナウイルス感染症278例の検討
……後藤　健一，山本　舜悟，村松　高志，後藤　　希，森田　眞由，熊原　秀和
松永　珠青，山田　　雅，村田　龍宣，萱原　慎理，村上あおい，栃谷健太郎
岩本　伸紀，青木　一晃，元林　　寛，輿語　　葵，清水　恒広…… 5

症　　例

川崎病が疑われ，血球貪食性リンパ組織球症様の病態を示した急性炎症性疾患の1例
……松浦　　周，天谷英理子，田村　真一，石田　宏之，岡野　創造，黒田　啓史……13

慢性好中球性白血病の一例
……松井　道志，田村　直紀，井上　雄太，奥田　健大，宮原　裕子，伊藤　　満
山口　博樹……18

頭蓋内外に腫瘍性病変を形成した慢性リンパ性白血病の一例
……奥田　健大，田村　直紀，井上　雄太，大庭　章史
堀澤　欣史，松井　道志，宮原　裕子，伊藤　　満……23

特集：第31回京都市立病院地域医療フォーラム

〔特別講演〕

生と死を支える
……大坂　　巌……29

〔一般講演〕

当院における緩和ケアの取組～緩和ケア病棟開設から1年を経過して～
……大西　佳子……42

緩和ケアにおける食支援の取組
……植木　　明……46

当院における緩和的放射線療法
……平田希美子……50

第18回院内合同研究発表会集録

急性期脳卒中患者のトイレ動作と転倒の関連について
……日下部和貴，久保　美帆，原田　洋一，小林宗一郎
羽倉　千夏，安田　早希，多田　弘史
川勝　伸也，上野　美香……54

CT カンファレンスの効果について
……澁谷　祥子，大町　優介，山本　晃豊，尾関　裕彦，津川　和夫
谷掛　雅人……59
当院におけるホルマリン管理と紛失防止策
……田中　志穂，川辺　民昭，野田みゆき，竹腰　友博
古市　佳也，宮城華那子，山田　　雅，村上　典子……65
内視鏡センターへの臨床工学技士（CE）の介入
……福元　竜成，井上　雄介，相川　孝彰，白山　幸平，伊藤　禎章……70
外来化学療法センターから院外処方せんを FAX 送信することによる患者待ち時間の変化
……大野　恵一，目黒　裕史，本多　伸二，三松　史野，佐分利美帆子
實光　由香，内藤　　舞，寸田　　靖，村岡　淳二
本田　　薫
桐島　寿彦……73
病院厚生会事業の在り方と重要性
……廣瀬　梨奈，川﨑　尚美，中島美弥子……77
外来化学療法室での栄養指導の取り組み
……片山さくら，植木　　明，花川　卓子，樋口　由美，原田　麻子
平野真美子，中村　佳菜，沢本　瑞穂，中　　謙太……79
医師・看護師・ホスピタルプレイスペシャリストによる協働
～処置を受ける子どもへのプレパレーション，ディストラクションの取り組み～
……中村公光子……82
頭頸部癌放射線療法後の晩期有害事象に対する看護支援
……枚岡かおる，森脇有希代
平田希美子，楢林　正流，大津　修二……86
リンパ浮腫外来を始めて
……荻野　葉子……91
訪問看護研修報告　小児科病棟での継続支援
……岡本友美子……94
がん化学療法看護認定看護師教育課程修了報告とその後の活動
……大柿　深雪……97
がん放射線療法看護認定看護師教育課程修了報告
……中川　紀直…… 100

ＣＰＣ報告

2020 年度 CPC 報告
……嶋田　恵理，香月奈穂美，岸本　光夫…… 104

院内研修会開催記録（令和２年度）…… 106

研究業績目録

原　　著…… 148
学　　会…… 156
マスメディア…… 166

巻　頭　言

京都市立病院紀要41巻をお届けいたします．本誌は1982年3月17日に創刊され40年の節目を迎えました．元々年1回，主に診療部の業績報告としてスタートしましたが，2003年からは看護部の看護研究収録集を1号として位置づけ，冊子として年2回刊行してまいりました．この間，2004年には各部門の研究内容をポスターセッション研究発表会集録として，また翌2005年からは院内合同研究発表会集録と発展的に改名して掲載，以後他の部門からの投稿も徐々に増え，2009年からは2号に地域医療フォーラムの内容を加えた今の形になっています．

以前からペーパーレス化の議論を重ねてきましたこの紀要ですが，いよいよ今年度より完全電子化を図る事になりました．それに伴い発刊も年1回とし，ホームページ上に公開させていただきます．掲載内容については，2回分の内容を1つにまとめた形となり，41巻には第18回院内合同研究発表会と第31回地域医療フォーラムの内容，2編の研究と3編の症例報告が掲載されています．これで印刷代等のコストの削減や資源の消費を抑えることにつながり，利便性も向上しますが，私個人としては紙ベースの書物の良さを味わえなくなる寂しさも感じます．

本紀要に限らず，最近ではいろいろなところでアナログからデジタルへの転換の流れがあります．一昨年から始まった新型コロナウイルスのパンデミックで，学会，講演会，研修会などの現地開催がことごとく制限を受けている状況ですが，こういう事態になったからこそ，WEB開催の導入が急速に進んだとも言えます．時代はいずれポストコロナを迎えますが，IT化はその経済性，利便性ゆえにますます加速していくでしょう．

これが社会の進歩と捉えるべきなのでしょうが，便利になる反面，直接会って顔を見合わせ関わり合う機会が減り，現場の雰囲気，臨場感，相手の細かな表情の動きなど，人の感性に関わる部分の経験値が減っていく事になり，ひいては人間関係の希薄な社会になっていくのではないかと一抹の不安を禁じ得ません．もちろん，IT化に反対しているわけではなく，この流れを止めることはできませんが，だからこそ余計にそういう面での配慮が必要になると思います．人と人との付き合いを大切にし，お互いを思いやる気持ちを失わない社会であってほしいと願っています．

最後になりましたが，本紀要41巻の執筆，校正，編集に携わっていただいた皆さんに深謝いたします．

令和4年1月

京都市立病院機構京都市立病院

院長　黒　田　啓　史